

第 1 章 策定主旨

1-1. 北斗市水道ビジョンの策定趣旨

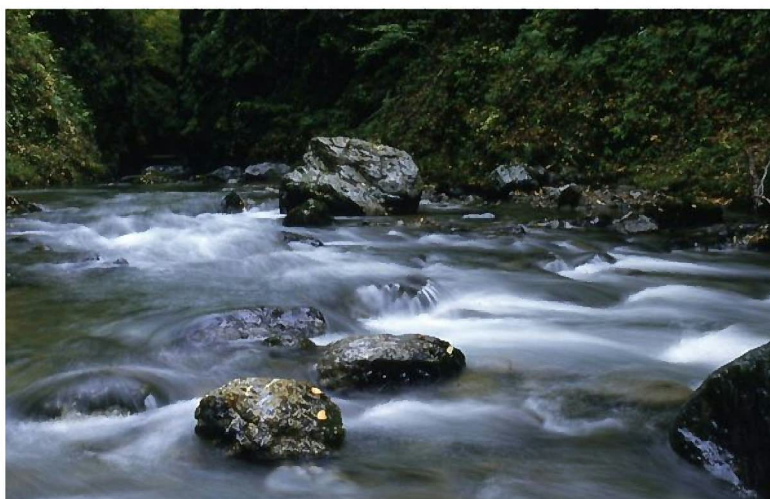
北斗市水道事業は、これまで宅地開発による市街地拡大や人口増加に加え、生活様式の変化に伴う水需要の増加のため、給水区域の拡張、施設の増強を進め、市民の皆さまに安全な水の安定供給に努めてきました。

その結果、北斗市の行政区域内人口の97%をカバーする高い普及率を達成し、市民の健康や社会経済活動を支える重要なライフラインとして欠くことのできないものとなっています。

しかしながら、国の地方行財政制度の改革に伴い、今後の地方自治体のあり方をめぐる情勢が一段と厳しい状況にあり、今後少子・高齢社会化や地方分権が一層進み、社会経済情勢がめまぐるしく変化しています。水道事業をとりまく環境も人口減少や経済情勢による水需要の減少、水道水の安全性に関する関心の高まり、水道水質基準の強化など大きく変化しています。

加えて、財政運営は一段と厳しさを増す中、老朽化施設の更新、地震災害等に対処する水道施設の耐震化も早急の課題となっています。

以上を踏まえ、安全で良質な水道を安定して供給するため、国や北海道が示した方針を参考に、北斗市水道が抱える課題を整理し、今後目指すべき方向性と取り組み内容について、市民の皆さまに広く理解と協力を得られるように、「北斗市水道ビジョン」を作成しました。



釜ノ仙境

1-2. 北斗市水道ビジョンの位置づけ

厚生労働省では、平成25年3月に「新水道ビジョン」を策定・公表しました。この「新水道ビジョン」は、平成16年の水道ビジョン策定から約9年が経過し、水道を取り巻く環境が大きく変化していることから、これまで国民の生活や経済活動を支えてきた水道の恩恵を、今後も全ての国民が継続的に享受し続けることができるよう、50年、100年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、その理想像を具現化するため、今後、当面の間に取り組むべき事項、方策を提示しているものです。

北斗市の水道ビジョンは、厚生労働省の「新水道ビジョン」や北海道の「北海道水道ビジョン」を踏まえ第一次北斗市総合計画との整合を図りながら長期的な展望から将来の水道の目標となる姿を設定し、基本的な考えや方向性、実施施策を示すマスタープランとなるものです。

本ビジョンでは、計画期間を平成27年度から平成46年度までの20年間とし、事業の現況分析・評価を行うため、新水道ビジョンや北海道水道ビジョンに掲げられた「持続」「安全」「強靱」のテーマの他、業務指標（PI）を算定し、将来の目標の基礎となる給水量、給水人口を予測し、本事業の現状や地域特性等を踏まえ、本市水道の将来像および目標を設定します。

また、目標実現に向けての推進方策として、そのフォローアップ方法、見直しの時期などについて、施設整備のハード面、運営・管理等のソフト面から検討し、必要があれば見直しを行うことで推進していきます。

